

更新

事業者名	一般社団法人アイ・オー・イー
------	----------------

<2030年のSDGs達成に向けた経営方針と目指す姿>

引き続き、体験活動における青少年健全育成活動事業を通して、自ら考え行動する力を持った人材育成を目指します。

<SDGsに関する重点的な取組み及び指標>

三側面 (分野に☑)	SDGsに関する重点的な取組み	指標 (更新時に向けた数値目標)
☑ 環境 ☑ 社会 ☑ 経済	体験活動時において、環境問題について考える機会を設けている。	体験活動の実施回数 2023年 30回 ➡2026年 35回
☑ 環境 ☑ 社会 ☑ 経済	体験活動時において、ボランティア活動参加者に向けた育成を行う。	体験活動のボランティア育成 2023年 190名 ➡2026年 200名
☑ 環境 ☑ 社会 ☑ 経済	体験活動のフィールドにおいて、河川、海洋ごみの清掃を行う。	ゴミ清掃の回数 2023年 8回 ➡2026年 10回

<パートナーシップ>

- 一般財団法人くまもとSDGs推進財団(理事としてSDGsを共に推新。)
- 認定NPO法人地球市民の会(発展途上国への国際協力活動を共に支援。)
- 一般社団法人RQ災害教育センター(RQ九州として共に災害支援活動に備える。)

・「SDGsに関する重点的な取組み」には環境・社会・経済の三側面の全てについて、重点的な取組みを記載してください。なお、取組みが複数の分野に該当する場合は、それぞれの分野にチェックを入れてください。  
 ・「指標(更新時に向けた数値目標)」には、それぞれの取組みに対する「目指す姿」の実現を念頭に、更新時までの数値目標を記載してください。  
 ・「パートナーシップ」には、企業やNPO法人、行政など関係機関との連携を記載してください。

<SDGsに関するこれまでの重点的な取組み及び指標に係る進捗状況>

三側面 (分野に☑)	取組みの状況	前期の指標	実績
☑ 環境 ☑ 社会 ☑ 経済	数値目標: 通年で行っている事業に参加する子どもたちに向け、「【ゴール14】海の豊かさを守ろう」のゴミ問題を取り上げ、その原因、人間としての責任、保全のためにできるこれからのパネル方式で活動後にふりかえりを継続した。リピーターの子もたちは、「この答えわかる!」「この話、知ってる!」という声が徐々に聞こえはじめてきた。これは継続の成果だと思われる。今後も、テーマをアレンジし、伝えたいことをどう伝えようと記憶と行動にうつせるのかを追求していきたい。	体験活動の実施回数 2020年 22回 ➡2023年 30回	体験活動の実施回数 2020年 22回 ➡2023年 30回
☑ 環境 ☑ 社会 ☑ 経済	自然体験活動へリーダーとして参加したボランティア(高校生以上)へは、子どもたちと同様に、「【ゴール14】海の豊かさを守ろう」を知ってもらっている。その中で、どう自分なりに咀嚼し、行動へ移すかを見守りたい。	体験活動のボランティア育成 2020年 107名 ➡2023年 155名	体験活動のボランティア育成 2020年 107名 ➡2023年 190名
☑ 環境 ☑ 社会 ☑ 経済	2020年度の0回においてはの理由 ●本来の自然体活動プログラムのスケジュールとの時間調整が難しい。 ●清掃後のゴミを処理する場所がなく、最後まで処理できるような調整ができなかった。 以上の理由で、未達成としました。 それ以降、2023年までは、出来る時に出来ることをやるということで決め、実施した次第です。	ゴミ清掃の回数 2020年 0回 ➡2023年 16回	ゴミ清掃の回数 2020年 0回 ➡2023年 8回

・「取組みの状況」には、前回登録申請した際の重点的な取組みの実施状況や指標の達成状況を記載してください。指標が未達成の場合は、その理由等も記載してください。